

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	5 年次 ・ 前期 (MS, EI, C の 3 クラス) ・ A 群		
	対象学科・専攻	機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科		
	担当教員	鮫島 俊秀 (Sameshima, Toshihide) 中村 隆文 (Nakamura, Takafumi) 林 良平 (Hayashi, Ryohei) 上小 鶴博 (Kamikozuru, Hiroshi) (技術士) 井内 祥人 (Iuchi, Yoshihito) (技術士) 門松 経久 (Kadomatsu, Tsunehisa) (技術士)		
	技術倫理総論 (Engineering Ethics)	教員室	鮫島: (TEL: 42-9045), 中村: (TEL: 42-9043) 林: (TEL: 42-9044) 以上, 一般教育科棟 3 階 上小鶴, 井内, 門松: (TEL: 42-2167) 以上, 学生共通棟 1 階 非常勤講師控室	
	E-Mail	鮫島: t_samesi 中村: nakamura 林: hayashi ※後ろに, @kagoshima-ct.ac.jp を付けて下さい。 上小鶴: hiroshi_kamikozuru@yahoo.co.jp 井内: iuchi-yoshihito@pref.kagoshima.lg.jp 門松: t-kadomatsu@m-technos.co.jp		
教育形態 / 単位の種別 / 単位数		講義 / 学修単位 [講義Ⅱ] / 2 単位		
週あたりの学習時間と回数		[授業 (90 分) + 自学自習 (210 分)] × 15 回 ※適宜, 補講を実施する		
[本科目の目標] 科学技術は我々に多大な恩恵をもたらしてきた一方で、多くの問題もまた生み出してきた。現在、科学技術に携わる「技術者」として必要なものは、その功罪を知ること、そして「科学」や「技術」の根幹部分を問い直し、「技術者として倫理的に生きる」とはどのようなことであるのかを、自分自身で考え決断する態度であるように思われる。昨今、技術者に求められる社会的責任は大きく、そして多様化したものであるが、歴史的・思想的背景や法的責任、そして実際に起こった事例などを多角的に検討・分析することによって、あるべき技術者の概要を捉えてゆくことが本科目の目標である。また、最低限必要な、論文・レポート作成能力の育成も、本科目の大きな目標のひとつである。				
[本科目の位置付け] 本科目はこれまでの人文科目 (主に社会科学科目) で学んだ基礎的教養をもとに、技術者としての自覚と責任を再認識するためのものであると同時に、専攻科 2 年次の「技術倫理」とも関連する科目である。				
[学習上の留意点] 講義内容を理解するために、毎回、前回の講義を参考に 2 時間程度の予習をし、授業時間での質問等に対応できるようにしておくこと。また、講義終了後は、復習として 2 時間程度の演習問題等の課題に取り組むこと。疑問点があれば、その都度質問すること。				
[授業の内容]				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 科学技術の歴史 (鮫島)	4	□ 歴史的観点から、科学および技術者の在り方について理解できる。	☐	・近代以降の科学史一般について、図書館の文献やインターネット等を使って調べ、事前に理解しておく。
2. 設計と効用 (林)	4	□ 技術者の設計とその社会的意義について理解できる。	☐	・設計と経済効果の問題について、図書館の文献やインターネット等で事前に調べ、概略を理解しておく。
3. 科学哲学概論 (中村)	4	□ ポパーの反証可能性など、科学哲学上の論争の意義について理解する。	☐	・左の項目について、図書館の文献やインターネットで概略を理解しておく。
——中間試験——		授業項目 1～3 までの内容について達成度を確認する。		
4. 技術者と実務上の諸問題	16	□ 技術士の観点から、技術者の関係する実務上の諸問題とその解決法を理解する。※技術士の講義と演習形式の授業の組み合わせで実施する。	☐	・「技術士」という資格、およびその社会的意義について、図書館の文献やインターネット等で事前に調べ、概略を理解しておく。
——期末試験——		授業項目 4 の内容について達成度を確認する。		
試験答案の返却・解説	2	各試験において間違えた部分を理解できる。		
[教科書] なし				
[参考書・補助教材] 授業時配布プリント等				
[成績評価の基準] 各担当教員の実施する試験またはレポート課題 (各 100 点満点) の平均点で評価する。				
[本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連] 4-a				
[教育プログラムの学習・教育目標との関連] 4-2				
[JABEE との関連] (b)				

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分		5 年次 ・ 前期 ・ A 群	
	対象学科・専攻		機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科	
保 健 体 育 (Physical Education)	担当教員		堂園 一 (Douzono , Hajime) 北蘭 裕一 (Kitazono , Yuichi) 山崎 亨 (Yamasaki , Toru)	
	教員室		体育館 2 階 (TEL&FAX : 42-9065 または 42-9066)	
	E-Mail		kitazono@kagoshima-ct.ac.jp	
	教育形態／単位の種別／単位数		講義・実習 / 履修単位 / 1 単位	
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分)〕×15 回 ※適宜, 補講を実施する		
〔本科目の目標〕 運動の合理的な実践と健康についての基礎的な事項について科学的な理解を深め, これらに基づいて自ら進んで積極的なスポーツ活動への参加と, 健康の保持増進に関する問題を解決する能力を養う。				
〔本科目の位置付け〕 心身共に健康な技術者としての身体の基礎づくり。体育・スポーツ活動の実践を通して, 相手の立場に立ってものを考え, グローバルに活躍できる人間性の育成。				
〔学習上の留意点〕 教科書「高専の健康科学」及び参考書「アクティブスポーツ」の授業に関連するところを読み理解すること。実技においては, 教材 (運動場・体育館) を考えて正しい服装と, 体育用具等の管理, 安全に十分留意すること。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. オリエンテーション	2	☐ (1) 選択制授業のガイダンスを理解することができる。 ☐ (2) AED (自動体外式除細動器) の取り扱い方法と一次救命処置が理解できる。	☐ ☐	参考書「アクティブスポーツ」による
2. スポーツテスト	4	☐ (1) 運動能力テストと体力診断テストを実施し, 自己評価ができる。	☐	
注) 選択制 10 : 授業項目 3～12 については, 各種目 10 時限をワンセットとして, 種目選択の機会を 2 回設定する。従事時間合計 20 時限 (=10 時限×2 種目)。				
3. バレーボール	選択制 10	☐ (1) パス、スパイク、サービスができる。 ☐ (2) 1・5 フォーメーションゲーム、審判を行うことができる。	☐ ☐	P187-P207 の内容について、特に集団技能の練習法とチームフォーメーションを理解しておく。
4. テニス	選択制 10	☐ (1) 基礎技術練習: グリップ、ラケットワーク、ストローク、サービス、ネットプレイ ☐ (2) ゲームの進め方、審判法、ゲーム (シングル、ダブルス)	☐ ☐	P209-P218 の内容について、正規のシングルス、ダブルスの戦術的理解とゲームの進め方を理解しておく。
5. ソフトテニス	選択制 10	☐ (1) 基本技能 : ストローク、サービス、ボレーができる。 ☐ (2) 雁行陣・平行陣のゲームができる。	☐ ☐	P219-P228 の内容について、正式なルールにより、ペアで作戦を立ててのゲームを理解しておく。
6. ソフトボール	選択制 10	☐ (1) 基本技能の復習ができる。 ☐ (2) ゲーム、審判を行うことができる。	☐ ☐	P249-P260 の内容について、特にチームプレイの徹底を理解しておく。
7. ゴルフ	選択制 10	☐ (1) クラブの種類と構造、握り方を理解できる。 ☐ (2) スイングの基本と練習ができる。	☐ ☐	P261-P266 の内容について、特にプレイ上のエチケットとマナーを理解しておく。
8. サッカー	選択制 10	☐ (1) 基礎技術及びシュート練習ができる。 ☐ (2) 4・3・3 システムフォーメーションの理解とゲーム、審判を行うことができる。	☐ ☐	P143-P166 の内容について、特にゲームスタイルの変遷を理解しゲームに応用できるようにしておく。
>>> 次頁へつづく >>>				

〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
		>>> 前頁からのつづき >>>		
注) 選択制 10 : 授業項目 3～12 については、各種目 10 時限をワンセットとして、 種目選択の機会を 2 回設定する。従事時間合計 20 時限 (=10 時限×2 種目)。				
9. バスケットボール	選択制 10	☐ (1) 基礎技術の習熟:レイアップショット、リバウンドボール、ドリブルなどができる。 ☐ (2) 集団技術:セットオフENSE、マンツーマン・ゾーン の理解とゲーム・審判を行うことができる。	☐ ☐	P101-P124 の内容について、 特にマンツーマン、ゾーンの 考えを理解してゲームができ るようにしておく。
10. 水 泳	選択制 10	☐ (1) 4泳法のスタートができる。 ☐ (2) 25m のタイム測定ができる。	☐ ☐	P65-P80 の内容について、健 康面の効果や、安全、救助法 についても理解しておく。
11. バドミントン	選択制 10	☐ (1) 基本技能の理解と練習:正しいスタンス、グリップに ついて理解できる。 ☐ (2) ゲーム(シングルス、ダブルス)、審判を行うことが できる。	☐ ☐	P239-P248 の内容について 相手に応じて作戦を立てて ゲームすることを理解してお く。
12. 卓球	選択制 10	☐ (1) 基本的な打球のコース(サービスも含む)を理解し て基本練習を行うことができる。 ☐ (2) ゲーム(シングルス、ダブルス)、審判行うことがで きる。	☐ ☐	P229-P238 の内容について 入射角と反射角、ボールの 回転と反発の科学的理解をし ておく。
13. 保健体育理論	4	☐ (1) 人体の器官とその機能について理解できる。 ☐ (2) 現代社会と健康について理解できる。	☐ ☐	P29-P52 及び P53-P62 の内容 について、教科書「運動と健 康の科学」を読んで概要を把 握しておく。
〔教科書〕 保健体育理論 『運動と健康の科学』 伊藤道郎 他(鈴木製本所) 〔参考書・補助教材〕 体育実技 『アクティブスポーツ』 長谷川聖修 他(大修館書店) 〔成績評価の基準〕 技能 (60%) + スポーツテスト (30%) + レポート (10%) - 授業態度 (30%)				
〔本科(準学士課程)の学習・教育目標との関連〕 4ーb 〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 4ー1 〔JABEE との関連〕 (b)				

Memo

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分		5 年次 ・ 通年 ・ A 群			
	対象学科・専攻		機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科			
	担当教員		鞍掛 哲治 (Kurakake , Tetsuharu)			
	教員室		図書館 2 階 (TEL : 42-9058)			
英 語 A (English A)	E-Mail		kurakake@kagoshima-ct.ac.jp			
	教育形態／単位の種別／単位数		講義・演習 / 学修単位〔講義 I〕 / 2 単位			
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分) + 自学自習 (60 分)〕 × 30 回 ※適宜, 補講を実施する				
〔本科目の目標〕 従来の工業英語の授業は、理工系の香りのするエッセイ風のリーディングや専門用語の習得のものが多く、残念ながら学習者が実社会に出た際にそれ程役に立つものではありませんでした。本授業では、インターネット上に無数にある authentic な教材を使い、様々な場面に必要な英語の特徴をジョブ・シミュレーションを通して把握・練習させ、実社会でも通じる英語を目指しています。						
〔本科目の位置付け〕 4 年次までに習得した英語(語彙・文法・読解等)を踏まえ、工業英語の基礎を養う。						
〔学習上の留意点〕						
・この講義では、自分で調べ、考え、そして自分の考えをまとめて発表することに多くの時間を割きます。						
・英文ライティングやプレゼンテーションの機会がありますが、このような機会をチャンスと捉え、積極的な参加を期待します。						
〔授業の内容〕						
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容		
1. オリエンテーション Eメール	1 4	□ 授業項目 1～3 について、構造・内容について理解することができる。	☐	pp.6-23 の内容について、教科書を読んで概要を把握しておく。		
2. 新製品広告	6					
3. カタログ	5					
4. 仕様書	1	□ 授業項目 4～6 について、構造・内容について理解することができる。	☐	pp.24-41 の内容について、教科書を読んで概要を把握しておく。		
5. 操作マニュアル	5					
6. 求人広告	6					
ー 前学期期末試験 ー	2	授業項目 1～6 について達成度を確認する。				
試験答案の返却・解説		試験において間違えた部分を理解できる。				
7. ビジネスレター	4	□ 授業項目 7～9 について、構造・内容について理解することができる。	☐	pp.42-65 の内容について、教科書を読んで概要を把握しておく。		
8. プレゼンテーション	15					
9. 解説書・ホームページ	3					
10. 工業英語検定	6	□ 授業項目 10 について、構造・内容について理解することができる。	☐	pp.90-94 の内容について、教科書を読んで概要を把握しておく。		
ー 後学期期末試験 ー					授業項目 7～10 について達成度を確認する。	
試験答案の返却・解説	2				試験において間違えた部分を理解できる。	
〔教科書〕 「ESPにもとづく工業技術英語 大学・高専生のための新しい英語トレーニング」 野口ロジュディ 他監修 南雲堂 「理工系学生のための科学技術英語-語彙編」 岡裏佳幸編 南雲堂 その他必要に応じてプリント配布						
〔参考書・補助教材〕 ジーニアス英和辞典(第 4 版) 、ウィズダム英和辞典(第 2 版)						
〔成績評価の基準〕 定期試験(50%) + 提出物(25%) + プレゼンテーション(25%)						
〔本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連〕 2-b, 4-b						
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 2-3, 4-3						
〔JABEE との関連〕 (a), (f)						

Memo

.....

.....

.....

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分		5 年次 ・ 通年 ・ A 群	
	対象学科・専攻		機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 都市環境デザイン工学科	
	担当教員		坂元 真理子 (Sakamoto, Mariko)	
	教員室		図書棟 2 階 (TEL : 42-9067)	
英 語 A (English A)	E-Mail		sakamoto@kagoshima-ct.ac.jp	
	教育形態／単位の種別／単位数		講義 / 学修単位〔講義Ⅰ〕 / 2 単位	
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分) + 自学自習 (60 分)〕 × 30 回 ※適宜, 補講を実施する		
〔本科目の目標〕 身近な事や社会で起こっている事柄について英語の文章を読み、それについて自分の考えを英語で表現する。				
〔本科目の位置付け〕 これまでに習得した英語の技能の中でも特に「読む、書く」技能を駆使し、課題の内容について考えをまとめ、「話す」訓練を行なう。				
〔学習上の留意点〕 毎回自分の意見を表現する活動が入るため、物事について考えることが嫌いな学生の受講は勧めない。毎回スピーキングテストを行うので、「話す」活動が苦手な学生の受講は勧めない。必要に応じて英和・和英辞書を持参すること。なお、本科目は学修単位〔講義Ⅰ〕科目であるため、指示内容について 80 分程度の自学自習（予習・復習）が必要である。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 読む	5	□ 授業項目 1～4 について適切に実践することができる。	☐	当該の章の英文をあらかじめ読み、概要を把握しておくこと。
2. 書く	5			
3. 話す	5			
4. 聞く	5			
5. 身近な事や社会で起こっている事柄について考える	4	□ 読んだ内容について、与えられた課題の中で授業項目 1～5 の技能を使った活動を行うことができる。	☐	
6. 5 の内容を英語で発表する	4	□ 演習の中で、授業項目 1～5 で学んだ内容を実践し、英語コミュニケーション能力の一部として身につけることができる。	☐	
--- 前期期末試験 ---		授業項目 1～6 について達成度を評価する。		
試験答案の返却・解説	2	試験答案の解説を行なうことで、間違えた部分を理解し学習活動について振り返ることができる。		
1. 読む	5	□ 授業項目 1～4 について適切に実践することができる。	☐	当該の章の英文をあらかじめ読み、概要を把握しておくこと。
2. 書く	5			
3. 話す	5			
4. 聞く	5			
5. 身近な事や社会で起こっている事柄について考える	4	□ 読んだ内容について、与えられた課題の中で授業項目 1～5 の技能を使った活動を行うことができる。	☐	
6. 5 の内容を英語で発表する	4	□ 演習の中で、授業項目 1～5 で学んだ内容を実践し、英語コミュニケーション能力の一部として身につけることができる。	☐	
--- 後期期末試験 ---		授業項目 1～6 について達成度を評価する。		
試験答案の返却・解説	2	試験答案の解説を行なうことで、間違えた部分を理解し学習活動について振り返ることができる。		
〔教科書〕 Immediate Skills for Reading, Neil J. Anderson, 川又 正之, 成美堂				
〔参考書・補助教材〕 英和・和英辞典（既に購入しているもので可）				
〔成績評価の基準〕 定期試験 (50%) + レポート (50%) - 授業態度 (上限 10%)				
〔本科（準学士課程）の学習・教育目標との関連〕 2-b, 4-b				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 2-3, 4-3				
〔JABEE との関連〕 (a), (f)				

Memo

.....

.....

.....

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分		5 年次 ・ 通年 ・ A 群	
	対象学科・専攻		機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科	
	担当教員		佐藤 哲三 (Sato, Tetsuzo)	
	教員室		学生共通棟 1 階 非常勤講師控室 (TEL : 42-2167)	
英 語 A (English A)	E-Mail		ttz-satou@healthcare-m.ac.jp	
	教育形態／単位の種別／単位数		講義 / 学修単位〔講義Ⅰ〕 / 2 単位	
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分) + 自学自習 (60 分)〕 × 30 回 ※適宜, 補講を実施する		
〔本科目の目標〕 英検 2 級以上取得, TOEIC450 点以上獲得, 工業英文を正しく読み書きできる基礎的な事項を習得することを目標とする。				
〔本科目の位置付け〕 英検 2 級以上取得, TOEIC450 点以上獲得, 工業英文を正しく読み書きできる英語力を養うための学習コース。4 年生までに習得した英語(語彙、文法、読解等)の復習及び発展・強化を主軸とする。				
〔学習上の留意点〕 Slow and steady wins the race! 少しずつでもよい, 毎日英語学習に時間を割いて予習ノートを作成しておき, その予習ノートに加除修正したものを毎授業終了時に提出のこと。なお, 本科目は学修単位〔講義Ⅰ〕科目であるため, 指示内容について 60 分程度の自学自習 (予習・復習) が必要である。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. テキスト(Chapters 1-2 ①)	1	☐ (Chapters 1-2 ①)が理解できる。	☐	テキスト(Chapters 1-2 ①)
テキスト(Chapters3-4 ①)	1	☐ (Chapters 3-4 ①)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter s 3-4 ①)
2. テキスト(Chapter 5-1)	1	☐ (Chapter 5-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 5-1)
テキスト(Chapter 6-1)	1	☐ (Chapter 6-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 6-1)
3. テキスト(Chapter 7-1)	1	☐ (Chapter 7-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 7-1)
テキスト(Chapter 8-1)	1	☐ (Chapter 8-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 8-1)
4. テキスト(Chapter 9-1)	1	☐ (Chapter 9-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 9-1)
テキスト(Chapter 10-1)	1	☐ (Chapter 10-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 10-1)
5. テキスト(Chapter 11-1)	1	☐ (Chapter 11-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 11-1)
テキスト(Chapter 12-1)	1	☐ (Chapter 12-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 12-1)
6. テキスト(Chapter 13-1)	1	☐ (Chapter 13-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 13-1)
テキスト(Chapter 14-1)	1	☐ (Chapter 14-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 14-1)
7. テキスト(Chapter 15-1)	1	☐ (Chapter 15-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 15-1)
英検準 2 級レベル英語読解(1)	1	☐ 英検準 2 級レベル英語読解(1)が解ける。	☐	英検準 2 級レベル英語(1)
8. テキスト(Chapter 16-1)	1	☐ (Chapter 16-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 16-1)
英検準 2 級レベル英語読解(2)	1	☐ 英検準 2 級レベル英語読解(2)が解ける。	☐	英検準 2 級レベル英語(2)
--- 前期中間試験 ---		授業項目 1～8 について達成度を評価する。		
9. テキスト(Chapter 17-1)	1	☐ (Chapter 17-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 17-)
英検準 2 級レベル英語読解(3)	1	☐ 英検準 2 級レベル英語読解(3)が解ける。	☐	英検準 2 級レベル英語(3)
10. テキスト(Chapter 18-1)	1	☐ (Chapter 18-1)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 18-2)
英検準 2 級レベル英語読解(4)	1	☐ 英検準 2 級レベル英語読解(4)が解ける。	☐	英検準 2 級レベル英語(4)
11. テキスト(Chapter 1-2)	1	☐ (Chapter 1-2)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 1-2)
英検 2 級レベル英語読解(1)	1	☐ 英検 2 級レベル英語読解(1)が解ける。	☐	英検 2 級レベル英語(1)
12. テキスト(Chapter 2-2)	1	☐ (Chapter 2-2)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 2-2)
英検 2 級レベル英語読解(2)	1	☐ 英検 2 級レベル英語読解(2)が解ける。	☐	英検 2 級レベル英語(2)
13. テキスト(Chapter 3-2)	1	☐ (Chapter 3-2)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 3-2)
英検 2 級レベル英語読解(3)	1	☐ 英検 2 級レベル英語読解(3)が解ける。	☐	英検 2 級レベル英語(3)
14. テキスト(Chapter 4-2)	1	☐ (Chapter 4-2)が理解できる。	☐	テキスト(Chapter 4-2)
英検 2 級レベル英語読解(4)	1	☐ 英検 2 級レベル英語読解(4)が解ける。	☐	英検 2 級レベル英語(4)
--- 前期期末試験 ---		授業項目 9～14 について達成度を評価する。		
15. 試験答案の返却・解説	2	試験答案の解説で、間違えた部分を理解する。		
>>> 次頁へつづく >>>				

[授業の内容]				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
		>>> 前頁からのつづき >>>		
16. テキスト(Chapter 5-2)	1	☐ (Chapter 5-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 5-2)
英検準1級レベル英語読解(1)	1	☐ 英検準1級レベル英語読解(1)が解ける.	☐	英検準1級レベル英語(1)
17. テキスト(Chapter 6-2)	1	☐ (Chapter 6-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 6-2)
英検準1級レベル英語読解(2)	1	☐ 英検準1級レベル英語読解(2)が解ける.	☐	英検準1級レベル英語(2)
18. テキスト(Chapter 7-2)	1	☐ (Chapter 7-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 7-2)
英検準1級レベル英語読解(3)	1	☐ 英検準1級レベル英語読解(3)が解ける.	☐	英検準1級レベル英語(3)
19. テキスト(Chapter 8-2)	1	☐ (Chapter 8-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 8-2)
英検準1級レベル英語読解(4)	1	☐ 英検準1級レベル英語読解(4)が解ける.	☐	英検1級レベル英語(4)
20. テキスト(Chapter 9-2)	1	☐ (Chapter 9-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 9-2)
英検準1級レベル英語読解(5)	1	☐ 英検準1級レベル英語読解(5)が解ける.	☐	英検準1級レベル英語(5)
21. テキスト(Chapter 10-2)	1	☐ (Chapter 10-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 10-2)
英検準1級レベル英語読解(6)	1	☐ 英検準1級レベル英語読解(6)が解ける.	☐	英検準1級レベル英語(6)
22. テキスト(Chapter 11-2)	1	☐ (Chapter 11-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 11-2)
英検準1級レベル英語読解(7)	1	☐ 英検準1級レベル英語読解(7)が解ける.	☐	英検準1級レベル英語(7)
23. テキスト(Chapter 12-2)	1	☐ (Chapter 12-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 12-2)
英検準1級レベル英語読解(8)	1	☐ 英検準1級レベル英語読解(8)が解ける.	☐	英検準1級レベル英語(8)
―― 後期中間試験 ――		授業項目 16～23 について達成度を評価する.		
24. テキスト(Chapter 13-2)	1	☐ (Chapter 13-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 13-2)
工業英文 (原始の構造)	1	☐ (原始の構造) 関連英語が理解できる.	☐	工業英文(原始の構造)
25. テキスト(Chapter 14-2)	1	☐ (Chapter 14-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 14-2)
工業英文 (温度)	1	☐ (温度) 関連英語が理解できる.	☐	工業英文(温度)
26. テキスト(Chapter 15-2)	1	☐ (Chapter 15-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 15-2)
工業英文 (大量生産)	1	☐ (大量生産) 関連英語が理解できる.	☐	工業英文(大量生産)
27. テキスト(Chapter 16-2)	1	☐ (Chapter 16-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 16-2)
工業英文 (ダム建設問題)	1	☐ (ダム建設問題) 関連英語が理解できる.	☐	工業英文(ダム建設問題)
28. テキスト(Chapter 17-2)	1	☐ (Chapter 17-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 17-2)
工業英文 (組立住宅)	1	☐ (組立住宅) 関連英語が理解できる.	☐	工業英文(組立住宅)
29. テキスト(Chapter 18-2)	1	☐ (Chapter 18-2)が理解できる.	☐	テキスト(Chapter 18-2)
工業英文 (危険な気体)	1	☐ (危険な気体) 関連英語が理解できる.	☐	工業英文(危険な気体)
―― 後期期末試験 ――	2	授業項目 24～29 について達成度を評価する.		
30. 試験答案の返却・解説		試験答案の解説で、間違えた部分を理解する.		
[教科書] Let's Enjoy English 大学生のための総合英語 佐藤哲三 ほか 南雲堂				
[参考書・補助教材] 配布する工業英文プリント+英検過去問; 英和・和英辞典必携				
[成績評価の基準] 期末試験成績 (35%) + 中間試験成績 (35%) + 予習ノート成績 (30%) - 授業態度 (最大 10%)				
[本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連] 2-b, 4-b				
[教育プログラムの学習・教育目標との関連] 2-3, 4-3				
[JABEE との関連] (a), (f)				

Memo

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	5 年次 ・通年 ・ A 群		
	対象学科・専攻	機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科		
	担当教員	ジェームズ スコット (James, Scott)		
	教員室	学生共通棟 1 階 非常勤講師控室 (TEL : 42-2167)		
英語 A (English A)	E-Mail	jhsukotto@yahoo.com		
教育形態／単位の種別／単位数	講義 / 学修単位〔講義 I〕 / 2 単位			
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (90 分) + 自学自習 (60 分)〕 ×30 回 ※適宜, 補講を実施する			
[本科目の目標] To help students to develop the skills needed to converse with foreigners				
[本科目の位置付け] This course will emphasize conversations with one another and with the teacher, listening, reading and writing				
[学習上の留意点] Students will be expected to try to express themselves in English				
[授業の内容]				
授 業 項 目 Item of Lesson	時限 Hours	授業項目に対する達成目標 Attainment toward Item of Lesson	達成 attainment	予習の内容 Preparation (Contents to Study Beforehand)
1. Introduction to the course	2	☐ To understand course goals	☐	
2. Personal Information	6	☐ To be able to introduce themselves ☐ To understand relevant grammar	☐ ☐	Contents of Unit 1 To understand basic grammar
3. Descriptions	5	☐ To be able to describe people ☐ To understand relevant grammar	☐ ☐	Contents of Unit 2 To understand basic grammar
– Midterm Examinations –		Items 1. to 3. are tested to check students' attainment		
4. Daily Activities	5	☐ To be able to talk about their daily activities ☐ To understand relevant grammar	☐ ☐	Contents of Unit 3 To understand basic grammar
5. Locations	5	☐ To be able to talk about locations ☐ To understand relevant grammar	☐ ☐	Contents of Unit 4 To understand basic grammar
6. Directions	5	☐ To be able to ask for, give directions ☐ To understand relevant grammar	☐ ☐	Contents of Unit 5 To understand basic grammar
– Final Examination –	2	Items 4. to 6. are tested to check students' attainment		
Explanation of Returned Exam Papers		☐ To be able to understand the correct answer	☐	
7. Past Experiences	7	☐ To be able to talk about the past ☐ To understand relevant grammar	☐ ☐	Contents of Unit 6 To understand basic grammar
8. Jobs	6	☐ To be able to talk about jobs ☐ To understand relevant grammar	☐ ☐	Contents of Unit 7 To understand basic grammar
– Midterm Examination –		Items 7. and 8. are tested to check students' attainment		
9. The Future	5	☐ To be able to talk about the future ☐ To understand relevant grammar	☐ ☐	Contents of Unit 9 To understand basic grammar
>>> 次頁へつづく >>>				

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分		5 年次 ・ 通年 ・ A 群	
	対象学科・専攻		機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科	
ド イ ツ 語 II (Deutsch II)	担当教員		保坂 直之 (Hosaka, Naoyuki)	
	教員室		図書館 2 階 (TEL : 42-9064)	
	E-Mail		Hosaka@kagoshima-ct.ac.jp	
	教育形態／単位の種別／単位数		講義 / 学修単位〔講義Ⅰ〕 / 2 単位	
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分) + 自学自習 (60 分)〕 × 30 回 ※適宜, 補講を実施する		
〔本科目の目標〕 ビデオドラマを見てその台詞から日常会話でよく使う表現を取り上げ、口頭練習・聞き取り・書き取りなどの作業を通して、簡単なコミュニケーションが可能な実践的な語学力を養う。また、ドイツ・ヨーロッパの文化やものの見方に触れさせ、さまざまな異文化を受け入れることのできる多角的な視野を身につけさせる。授業に導入する歴史資料によって戦後の現代史を自然に学ぶことも目指す。(初級ドイツ語後半)				
〔本科目の位置付け〕 4 年次に学習した初級ドイツ語の入門的知識は必要。聞き取りや発話の演習を増やして、体系文法学習後のコミュニケーション中心の学習となる。				
〔学習上の留意点〕 授業内容をよく理解するためには、テキストの音読や読解のテキストなどの課題学習を含む復習、小テストへの準備など、60 分程度の自学自習が必要である。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1.A. 新ドイツ語..., F-4, 5, 6 1.B. 文法: 所有冠詞、定冠詞類、不規則変化動詞 1.C. 口頭練習 (教場試験)	14 1	☐ *定冠詞類、所有冠詞を変化させることができる。 ☐ *不規則動詞の変化を理解できる。 ☐ *口頭練習して自分・友人のことを自由に紹介できる。 (授業項目 1 について達成度を確認する)	☐ ☐ ☐	・指定された文法書の頁を予習すること。
2.A. 新ドイツ語..., F-7, 8 2.B. 文法: 前置詞 2.C. 口頭練習(Guten Tag, F5) (前期末試験) (答案返却・解説)	14 1	☐ *前置詞と格支配を理解できる。 ☐ *基本的な前置詞 nach, von, in の使い分けができる。 ☐ *口頭練習した内容での講読練習ができる。 (授業項目 1、2 について達成度を確認する) (試験において間違えた部分を理解できる)	☐ ☐ ☐	・指定された文法書の頁を予習すること。
3.A. 新ドイツ語..., F-9 3.B. 文法: 助動詞 3.C. 口頭練習(Guten Tag, F6) (後期中間試験) (答案返却・解説)	14 1	☐ *基本的な助動詞を使った表現を理解できる。 ☐ *口頭練習した内容での講読練習ができる。 ☐ *時刻の表現を理解できる。 (授業項目 3 について達成度を確認する) (試験において間違えた部分を理解できる)	☐ ☐ ☐	・指定された文法書の頁を予習すること。
4.A. 新ドイツ語..., F-10 4.B. 文法: 分離動詞 4.C. 講読練習 (映画のシナリオを抜粋) (学年末試験) (試験答案の返却・解説)	14 1	☐ *分離動詞の表現を理解できる。 ☐ *口頭練習した内容での講読練習ができる。 ☐ *授業で触れた歴史的知識を踏まえて、ドイツの現代映画を鑑賞できる。 (授業項目 4 について達成度を確認する) (試験において間違えた部分を理解できる)	☐ ☐ ☐	・配布されたプリントに目を通すこと。
〔教科書〕 Guten Tag, Goethe Institut, Langenscheidt(プリント配布), 『ドイツ語コミュニケーション』(入江幸江著) 三修社				
〔参考書・補助教材〕 『やさしい! ドイツ語の学習辞典』 同公社				
〔成績評価の基準〕 定期試験 (70%) + 小テスト・課題 (30%) (一授業態度 (10%)) <辞書持参>				
〔本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連〕 4b				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 2-3, 4-3				
〔JABEE との関連〕 (a), (f)				

Memo

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分		5 年次 ・ 通年 ・ A 群	
	対象学科・専攻		機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科	
韓 国 語 II (Korean Language II)	担当教員		鄭 潤在 (Jung ,yunjae)	
	教員室		学生共通棟 1 階 非常勤講師控室 (TEL : 42-2167)	
	E-Mail		alicebridal@yahoo.co.jp	
教育形態／単位の種別／単位数	講義 / 学修単位〔講義 I〕 / 2 単位			
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (90 分) + 自学自習 (60 分)〕 × 30 回 ※適宜, 補講を実施する			
〔本科目の目標〕 高級な韓国語の勉強に繋げるための初級、中級 level の語彙、会話能力を取得、及び文化の理解を深めていく。言葉と共に現地人の考え、習慣、風習などの文化を理解しようとする努力が必要であることを理解し、取得に取り組むこと。				
〔本科目の位置付け〕 5 年次の教養科目である。韓国語の文字、中級 level の会話能力を修得することを前提とする。				
〔学習上の留意点〕 実際、使える会話中心の学習になるので積極的に授業に取り組む姿勢を求める。韓国語・韓国文化に関する小レポートでさらに韓国と韓国語への理解を高めること。なお、本科目は学修単位〔講義 I〕科目であるため、指示内容について 60 分程度の自学自習 (予習・復習) が必要である。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. オリエンテーション	2	☐ ハングルの基本子音、母音、二重母音を理解し、文字の組み立てができる。	☐	左記項目について、教科書の関連する箇所等を読み、事前に調べておく
2.ハングルのまとめ	2	☐ 発音の変化を理解し、文章の中の発音がうまくなる。	☐	
3. 합니다体 (1)	2	☐ かしまった言い方である・・・体が活用できる。	☐	
4. 합니다体 (2)	2	☐ ... 体の作り方や活用法が理解できる。	☐	
5. 합니다体の否定形 (1)	2	☐ ... 体の否定形の作り方や表現ができる。	☐	
6. 합니다体の否定形 (2)	2	☐ 場面に合う否定形の使い方が理解できる。	☐	
7. 해요体 (1)	2	☐ ... 体の作り方や活用法が理解できる。	☐	
8. —中間試験—		授業項目1～7について達成度を確認する。		
9. 해요体 (2)	2	☐ うちとけた言い方である・・・体の表現ができる。	☐	
10. 해요体の否定形 (1)	2	☐ ... 体の否定形の作り方や表現ができる。	☐	
11. 해요体の否定形 (2)	2	☐ ... 体の場面に合う否定形の使い方や会話ができる。	☐	
12. 過去形	2	☐ ... 体、... 体の過去形の作り方や表現ができる。	☐	
13. 過去否定形 (1)	2	☐ ... 体、... 体の過去否定形の作り方ができる。	☐	
14. 過去形の否定形 (2)	2	☐ 否定形と共に頻度・程度を表す表現ができる。	☐	
15. 進行形	2	☐ 動詞の進行形の作り方や活用法が理解できる。	☐	
—期末試験—		授業項目 9～15 について達成度を確認する。		
—答案返却・解説—	2	試験において間違えた部分を理解できる。		
>>> 次頁へつづく >>>				

[授業の内容]				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
		>>> 前頁からのつづき >>>		
16. 数詞と助数詞	2	☐ 漢数詞を使った表現ができる。	☐	左記項目について、教科書の関連する箇所等を読み、事前に調べておく
17. 漢数詞と固有数詞	2	☐ 固有数詞と漢数詞の使い分けと数字が文章中で活用ができる。	☐	
18. 可能・不可能の表現	2	☐ 動詞の可能、不可能の表現ができる。	☐	
19. 願望の表現	2	☐ ～したい、してみたいなどの願望の表現ができる。	☐	
20. 接続語尾（１）	2	☐ 文章の構造を理解し、短文2つ以上を繋げて表現することができる。	☐	
21. ～て、～だが等の表現	2	☐ 順接、逆接の表現ができる。	☐	
22. 接続語尾（２）	2	☐ 文章を繋げて好みの表現等ができる。	☐	
23. ー中間試験ー		授業項目 16～22 について達成度を確認する。		
24. 接続語尾（３）	2	☐ 韓国語で ～て、くて、のでなどの原因による結果の表現ができる。	☐	
25. 接続語尾（４）	2	☐ 理由、前提動作の表現ができる。	☐	
26. 義務、当然の表現	2	☐ ～しなければならない、～べきだ、～てもよいの韓国語の表現ができる。	☐	
27. 動詞の連用形	2	☐ 動詞2つ以上を繋げて言う表現ができる。	☐	
28. 敬語	2	☐ 目上の人に対して使う表現ができる。	☐	
29. バンマル（駄目語）	2	☐ 歳の近い人同士で使う表現ができる。	☐	
30. 自由会話	2	☐ 2人で1つのグループを組んで主題を決めて自由会話ができる。	☐	
ー期末試験ー		授業項目 24～30 について達成度を確認する。		
ー答案返却・解説ー	2	試験において間違えた部分を理解できる。		
[教科書] 『韓国語の初歩』 金 三順、金 天鶴、吉川 友丈 著、白水社				
[参考書・補助教材] 適宜プリントを配布する				
[成績評価の基準] 中間および期末試験の成績（80%）＋ レポート成績（10%）＋ 授業態度（10%）				
[本科（準学士課程）の学習・教育目標との関連] 4－b				
[教育プログラムの学習・教育目標との関連] 2－3, 4－3				
[JABEE との関連] (a), (f)				

Memo

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分		5 年次 ・ 通年 ・ A 群	
	対象学科・専攻		機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科	
中国語Ⅱ (Chinese LanguageⅡ)	担当教員		陳 佳秀 (Chen, chia-hsiu)	
	教員室		学生共通棟 1 階 非常勤講師控室 (TEL : 42-2167)	
	E-Mail		magiechenjp@hotmail.com	
教育形態／単位の種別／単位数		講義 / 学修単位〔講義Ⅰ〕 / 2 単位		
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分) + 自学自習 (60 分)〕 × 30 回 ※適宜, 補講を実施する		
〔本科目の目標〕 第二外国語中国語のコミュニケーション能力に必要な基礎文法知識を習得する。				
〔本科目の位置付け〕 中国語を習得だけではなく、中国語の学習を通して、中国の文化、社会に興味を持たせ、簡単な日常的コミュニケーション能力を身につけることを目標とする。				
〔学習上の留意点〕 ① 本科目は学修単位〔講義Ⅰ〕科目であるため、指示内容について60分程度の自学自習（予習・復習）を欠かさないこと。 ② 授業中の聞き、話す、コミュニケーションの対話などを何度も音読すること。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1.2. 文の組み立て (動詞述語文)	2	☐ 動詞述語文の組み立て・動詞を理解し、正しく使用すること。	☐	各授業内容について、教科書を読み、概要を理解しておくこと。
3.4. 文の組み立て (形容詞述語文)	2	☐ 形容詞述語文の組み立て、形容詞を理解し、正しく使用すること。	☐	
5. 時態表現 (現在・過去)	2	☐ 現在に近い過去完了型を理解し、正しく使用すること。	☐	
6. 復習・応用問題ほか —前期中間試験—	2	☐ 授業項目1～5について復習する。 授業項目1～5について達成度を確認する。	☐	
7. 時態表現 (経験)	2	☐ 過去の経験についてと、動作の回数を表す動量詞について理解し正しく使用すること。	☐	
8. 時態表現 (進行)	2	☐ 過去の経験についてと、動作の回数を表す動量詞について理解し正しく使用すること。	☐	
9. 時態 (持続)	2	☐ 過去の経験についてと、動作の回数を表す動量詞について理解し正しく使用すること。	☐	
10. 方向補語Ⅰ	2	☐ 単純方向補語を理解し、正しく使用すること。	☐	
11. 方向補語Ⅱ	2	☐ 複合方向補語を理解し、正しく使用すること。	☐	
12. 可能補語Ⅰ	2	☐ 可能の助動詞との使い分けを理解し、正しく使用すること。	☐	
13. 可能補語Ⅱ	2	☐ 可能の助動詞との関連表現を理解し、正しく使用すること。	☐	
14. さまざまな表現Ⅰ	2	☐ 疑問文、反復疑問文を理解し、正しく使用すること。	☐	
15. さまざまな表現Ⅱ	2	☐ 疑問文、反復疑問文を理解し、正しく使用すること。	☐	
16. 総合復習 応用問題 —前期期末試験— —答案返却・解説—	2	☐ これまでに学習した重要表現を正しく使用することができる。 授業項目 1～16 について達成度を確認する。 各試験において間違えた部分を理解できる。	☐	
>>> 次頁へつづく >>>				

〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
		>>> 前頁からのつづき >>>		
17. 文の組み立て (疑問文Ⅰ)	2	☐ 程度を尋ねる疑問詞の組み合わせを理解し、正しく使用すること。	☐	各授業内容について、教科書を読み、概要を理解しておくこと。
18. 文の組み立て (疑問文Ⅱ)	2	☐ 状態や方法・様子や理由などの疑問詞を理解し、正しく使用すること。	☐	
19. 文の組み立て (疑問文Ⅲ)	2	☐ 打消しの語と一緒に用いる場合の疑問詞を理解し、正しく使用すること。	☐	
20. 存在表現Ⅰ	2	☐ ささまざまな存在表現を理解し、正しく使用すること。	☐	
21. 復習・応用問題	2	☐ これまでに学習した表現を正しく使用することができる。	☐	
—後期中間試験—		授業項目 17～21 について達成度を確認する。		
22. 存在表現Ⅱ	2	☐ 否定の存在表現を理解し、正しく使用すること。	☐	
23. 文の組み立て (形容詞)	2	☐ 程度副詞と形容詞との組み合わせを理解し、正しく使用すること。	☐	
24. 文の組み立て (形容詞否定文)Ⅰ	2	☐ ささまざまな程度副詞の応用を理解し、正しく使用すること。	☐	
25. 文の組立てⅡ	2	☐ 否定の形容詞と程度副詞を理解し、正しく使用すること。	☐	
26. 時態表現Ⅰ	2	☐ 否定の形容詞と程度副詞を理解し、正しく使用すること。	☐	
27. 時態表現Ⅱ	2	☐ 肯定文、否定文それぞれの表現を理解し、正しく使用すること。	☐	
28. 時態表現Ⅲ	2	☐ 肯定文、否定文それぞれの表現を理解し、正しく使用すること。	☐	
29. 時態表現Ⅳ	2	☐ 持続進行と形容詞述語文との組み合わせで正しく使用すること。	☐	
30. 総合復習・応用問題	2	☐ 持続進行と形容詞述語文との組み合わせで正しく使用すること。	☐	
		☐ これまでに学習した重要表現を正しく使用すること。	☐	
—後期期末試験— —答案返却・解説—	2	授業項目 17～30 について達成度を確認する。 各試験において間違えた部分を理解できる。		
〔教科書〕 『中国を歩こう』 金星堂				
〔参考書・補助教材〕				
〔成績評価の基準〕 中間、期末試験成績 (60%) + 授業態度 (40%)				
〔本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連〕 4-b				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 2-3, 4-3				
〔JABEE との関連〕 (a), (f)				

Memo

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	5 年次 ・ 前期 ・ B 群		
	対象学科・専攻	機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科		
英 語 B (English B)	担当教員	非常勤講師 新福 豊実 (Shinfuku , Toyomi) あべ松 伸二 (Abematsu , Shinji)		
	教員室	新福: 学生共通棟 1 階 非常勤講師控室 (TEL : 42-2167) あべ松: 図書館 2 階 (TEL : 42-9059)		
	E-Mail	新福: shintee@mail.goo.ne.jp あべ松: abematu@kagoshima-ct.ac.jp		
教育形態／単位の種別／単位数	講義 / 学修単位〔講義Ⅰ〕 / 1 単位			
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (90 分) + 自学自習 (60 分)〕 × 15 回 ※適宜, 補講を実施する			
〔本科目の目標〕 多くの企業や公的機関が英語能力を判定する手段として用いる英語資格試験 TOE I C における実力の養成を 目指し、ひいては実社会で役に立つ英語の習得を目標とする。				
〔本科目の位置付け〕 4 年次までに習得した語彙・文法などの基礎知識の定着を図り、リーディング・リスニング力を強化することによっ て総合的な英語力を高める。TOEIC の模擬問題に数多く当たって試験問題に慣れ、TOEIC スコア のアップを目指す。				
〔学習上の留意点〕 予習・復習を十分に行い、語彙・イディオム・構文の習得に努めること。 リスニングにおいてはさらに補 助教材を用い、リスニング力を強化すること。なお、本科目は学修単位〔講義Ⅰ〕科目であるため、指示内容について 80 分程度 の自学自習 (予習・復習) が必要である。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
Unit 1	2	☐ Arts & Amusement 名詞・代名詞を理解できる	☐	各 Unit の ・演習問題を解く。 ・語彙・イディオム・構文を辞 書・文法書で調べて覚え る。 ・リスニングの練習をする。
2	2	☐ Lunch & Parties 形容詞・冠詞を理解できる	☐	
3	2	☐ Medicine & Health 副詞を理解できる	☐	
4	2	☐ Traffic & Travel 比較を理解できる	☐	
5	2	☐ Ordering & Shipping 動詞・時制を理解できる	☐	
6	2	☐ Factories & Production 未来表現を理解できる	☐	
7	2	☐ Research & Development 主語と動詞の呼応・時制の一 致を理解できる	☐	
--- 前期中間試験 ---		授業項目 1～7 について達成度を確認する		
Unit 8	2	☐ Computers & Technology 能動態・受動態を理解できる	☐	各 Unit の ・演習問題を解く。 ・語彙・イディオム・構文を辞 書・文法書で調べて覚え る。 ・リスニングの練習をする。
9	2	☐ Employment & Promotions 不定詞・動名詞を理解でき る	☐	
10	2	☐ Advertisements & Personnel 分詞を理解できる	☐	
11	2	☐ Telephone & Messages 助動詞を理解できる	☐	
12	2	☐ Banking & Finance 接続詞を理解できる	☐	
13	2	☐ Office Work & Equipment 関係代名詞・関係副詞を理 解できる	☐	
14	2	☐ Housing & Properties 前置詞を理解できる	☐	
15	2	☐ Business & Management 条件文を理解できる	☐	
--- 前期期末試験 ---		授業項目 8～15 について達成度を確認する		
試験答案の返却・解説	2	各試験において間違えた部分を理解出来る		
〔教科書〕 Essential Approach for the TOEIC Test (塚野 寿一 他 著) 成美堂				
〔参考書・補助教材〕 TOE I C 関連プリント (必要時に配布)				
〔成績評価の基準〕 中間・期末試験成績 (70%) + 小テスト・課題提出 (30%) - 授業態度(最大 10%)				
〔本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連〕 2-b, 4-b				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 2-3, 4-3				
〔JABEE との関連〕 (a), (f)				

Memo

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	5 年次 ・ 前期 ・ B 群		
	対象学科・専攻	機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科		
	担当教員	松田 忠大 (MATSUDA, Tadahiro)		
	教員室	学生共通棟 1 階 非常勤講師控室 (TEL : 42-2167)		
法学 I (Law I)	E-Mail	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp		
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 履修単位〔講義Ⅱ〕 / 2 単位			
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (90 分) + 自学自習 (210 分)〕 × 15 回 ※適宜, 補講を実施する			
〔本科目の目標〕 技術者である前に良識ある市民たれ」というスローガンのもとに、よき技術者としてだけではなく、よき市民として現代社会において生活するために必要な法的知識および法的思考力を養う。法学概論と民事法を中心に扱い、(財)日弁連法務研究財団・(社)商事法務研究会主催の法学検定試験 4 級レベルの知識の修得を到達目標とする				
〔本科目の位置付け〕 本科目は、3 年次の政治経済および後学期開講の法学Ⅱとの関連がある。				
〔学習上の留意点〕 ①この講義では、限られた時間で多くの内容を学習することになるので、毎回、予習 (50 分程度)、復習 (150 分程度) を行うこと。 ②六法は毎回の授業で使用するので、必ず持参すること。 ③法学検定試験問題集 4 級 (2011 年度版) を購入し、予習・復習で活用することが望ましい。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
I 法学概論				
1. 法とは何か	4	□ 法と法律、その他の社会規範との相違を理解することができる。	☐	各授業項目について、図書館等で文献を読み、その概要を把握しておくこと。
2. 権利義務	4	□ 法の分類、権利の意義と分類、権利の社会性について理解することができる。	☐	
3. 法の適用と解釈	2	□ 法の解釈の必要性とその種類・方法を理解することができる。	☐	
II 民法概説				
1. 総則	2	□ 民法上の人、物の意義、法律行為、契約の意義と効果について理解することができる。	☐	
2. 物権法	2	□ 物権の種類と物権変動に関する基本的事項を理解することができる。	☐	
---前期中間試験---		項目 I -1 ～ II -2 について達成度を確認する。		
3. 債権法	12	□ 債権の効力、契約責任、不法行為の成立要件についての基礎的事項を理解することができる。	☐	
4. 家族法	2	□ 婚姻・離婚の意義、相続の意義について理解することができる。	☐	
---前期末試験---		項目 II -3 ～ II -4 について達成度を確認する。		
試験答案の返却・解説	2	各試験において間違えた部分を理解できる。		
〔教科書〕 なし				
〔参考書・補助教材〕 六法、法学検定試験問題集 4 級 (2011 年度版)				
〔成績評価の基準〕 中間・定期試験 (70%) + レポート (30%)				
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕 1-a, 4-a				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 4-1				
〔JABEE との関連〕 (a), (b)				

[illegible]

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	5 年次 ・ 後期 ・ B 群		
	対象学科・専攻	機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科		
	担当教員	松田 忠大 (MATSUDA, Tadahiro)		
	教員室	学生共通棟 1 階 非常勤講師控室 (TEL : 42-2167)		
法学Ⅱ (LawⅡ)	E-Mail	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp		
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 学修単位〔講義Ⅱ〕 / 2 単位			
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (90 分) + 自学自習 (210 分)〕 × 15 回 ※適宜, 補講を実施する			
〔本科目の目標〕 技術者である前に良識ある市民たれ」というスローガンのもとに、よき技術者としてだけではなく、よき市民として現代社会において生活するために必要な法的知識および法的思考力を養う。法学Ⅰとの関連において、法学Ⅱでは、商取引法を中心に扱い、現代ビジネスに必要な基礎知識を身につける。				
〔本科目の位置付け〕 本科目は、3 年次の政治経済および後学期開講の法学Ⅰとの関連がある。				
〔学習上の留意点〕 ①この講義では、限られた時間で多くの内容を学習することになるので、毎回、教科書等を参考に予習 (50 分程度)、復習 (150 分程度) を行うこと。 ②六法は毎回の授業で使用するので、必ず持参すること。 ③法学検定試験問題集 4 級 (2009 年度版) を購入し、予習・復習で活用することが望ましい。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 商人間の売買				各授業項目について、図書館等において文献を読み、その概要を理解しておく。
(1) 国内売買の形態	2	☐ 商事売買の多様性及び特色を理解することができる。	☐	
(2) 契約の成立とその履行	2	☐ 契約の成立要件、商品引渡、受領について理解できる。	☐	
(3) 国際売買概説	2	☐ 国際売買契約の成立要件、売買条件、契約条件への不適合と買主の救済制度について理解できる。	☐	
2. 消費者売買				
(1) 消費者契約	2	☐ 消費者売買契約の意義と消費者契約法の概要を理解することができる。	☐	
(2) 販売信用取引	2	☐ 信用取引の概要および割賦販売、ローン提携販売等に対する法規制について理解することができる。	☐	
(3) 特定商取引	2	☐ 特定商取引契約の意義・態様および法的規制の概要を理解することができる。	☐	
3. 企業金融				
(1) 荷為替信用状取引	2	☐ 荷為替信用状の意義および信用状取引当事者間の法律関係を理解することができる。	☐	
――後学期中間試験――		項目1～3(1)について達成度を確認する。		
(2) ファイナンス・リース	2	☐ ファイナンス・リース契約の意義、契約の成立、契約条項について理解することができる。	☐	
4. 商品サービスの流通に関する営業				
(1) 仲立人	2	☐ 仲立人の意義・契約の成立、仲立人の権利義務について理解することができる。	☐	
(2) 問屋	2	☐ 問屋と委託者との関係を理解することができる。	☐	
(3) 代理商	2	☐ 代理商の意義、代理商契約の概要について理解できる。	☐	
5. 海上運送				
(1) 海上運送と海上運送人	2	☐ 海上運送契約の意義および当事者、海上運送人の意義について理解することができる。	☐	
(2) 個品運送契約	2	☐ 個品運送契約の成立、船荷証券の意義、海上運送人の責任について理解することができる。	☐	
(3) 傭船契約	2	☐ 他船利用形態としての傭船契約の態様および傭船契約を巡る法律関係を理解することができる	☐	
――後学期末試験――		項目3(1)～5について達成度を確認する。		
試験答案の返却・解説	2	各試験において間違えた部分を理解できる。		
〔教科書〕 なし				
〔参考書・補助教材〕 六法				
〔成績評価の基準〕 中間・定期試験 (70%) + レポート (30%)				
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕 1-a, 4-a				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 4-1				
〔JABEEとの関連〕 (a), (b)				

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	2 年次 ・ 前期 ・ B 群		
	対象学科・専攻	機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 都市環境デザイン工学科		
	担当教員	林 良平 (Hayashi , Ryohei)		
	教員室	一般科目棟 3 階(Tel 42-9044)		
経済学 (Economics)	E-Mail	hayashi@kagoshima-ct.ac.jp		
教育形態／単位の種別／単位数		講義 / 学修単位〔講義Ⅱ〕 / 2 単位		
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分) + 自学自習 (210 分)〕 × 15 回 ※適宜, 補講を実施する		
〔本科目の目標〕 経済学の発展に大きく貢献したゲーム理論を学び, 現代社会の諸課題に関する理解を深める. その上で, 行動経済学, 実験経済学のアプローチを取り入れた実証方法について学習する.				
〔本科目の位置付け〕 3 年次「政治経済」で学んだ内容を基礎とし, 4 年次「社会概説Ⅱ」で学んだ内容を用いながら, より発展的な内容を取り扱う.				
〔学習上の留意点〕 基礎数学 (特に微分法, 統計学) が多用され, プログラミングに関する知識も必要なため, これまでに学習した関連分野について十分に習得しておく必要がある. 講義はプリント教材と, スライド資料, 板書によって行い, パソコンを用いたプログラミング, データ解析も行う. 授業時間中に内容と方法を理解した後は, 自学自習時間に各自で課題に沿った実践が不可欠である. 課題の進捗状況については, こまめに報告し, 相談するようにすること.				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. ゲーム理論				
(1) 非協力ゼロサムゲーム	1	☐ ゲーム理論の基本概念を理解できる.	☐	ゲーム理論に関する入門書を読み, 概要を理解しておく.
(2) 非協力ノンゼロサムゲーム	1	☐ クルーノー・ナッシュ均衡の概念を理解できる.	☐	
(3) 囚人のジレンマ	1	☐ 囚人のジレンマを現実問題と関連させて理解できる.	☐	
(4) 合理的なブタ	1	☐ 合理的なブタを現実問題と関連させて理解できる.	☐	
(5) マッチング	1	☐ マッチングを現実問題と関連させて理解できる.	☐	
(6) 水平思考	1	☐ 水平思考による問題解決の意義を理解できる.	☐	
2. 実験経済学				
(1) 実験経済学の原理	1	☐ 実験科学としての経済学の意義を理解できる.	☐	入門経済学の内容を復習し, 経済学的な考え方ができるように準備しておく. また, 基礎数学とプログラミングについても復習して授業に備える.
(2) 実験計画実験の被験者	1	☐ 効率的な実験計画を立てることができる.	☐	
(3) 実験設備と実施	1	☐ 偏りのないサンプリングができる.	☐	
(4) 経済実験の実施	2	☐ 経済実験が適切に行える.	☐	
(5) データ解析	2	☐ 科学的な手法でデータ解析ができる.	☐	
(6) 実験結果の報告	1	☐ 実験結果をまとめ, 報告することができる.	☐	
--- 期末 (定期) 試験 ---		項目 1-(1)-2-(6)について達成度を確認する.		
試験答案の返却・解説	1	試験答案の解説を行うことで, 間違えた部分を理解できる.		
〔教科書〕 なし				
〔参考書・補助教材〕 なし				
〔成績評価の基準〕 期末試験の平均 × 60%+ 経済実験 × 20%+ レポート × 20%				
〔本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連〕 1-a				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 1-1, 2-1				
〔JABEE との関連〕 (a)				

[illegible]

平成2年度 シラバス	学年・期間・区分		5年次 ・ 前期 ・ B群	
	対象学科・専攻		機械、電気電子、電子制御、情報、土木工学科	
	担当教員		森田 豊子 (Morita, Toyoko)	
	教員室		学生共通棟1階 非常勤講師控室 (TEL : 42-2167)	
政治学 (Politics)	E-Mail		saratoko@yahoo.co.jp	
	教育形態 / 単位の種別 / 単位数		講義 / 学修単位〔講義Ⅱ〕 / 2単位	
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分) + 自学自習 (210 分)〕×15 回 ※適宜、補講を実施する		
〔本科目の目標〕 政治学の基礎的な理論を身につけ、実生活においてその理論を生かし、応用することができるようにする。				
〔本科目の位置付け〕 本科で履修した「政治経済」などで得た基礎知識をもとに、より発展的な学習を行う。				
〔学習上の留意点〕 現実世界で起こっていることについて興味を持ち、自ら考えて行動する習慣を身につけること。なお、本科目は学修単位〔講義Ⅱ〕科目であるため、指示内容について 200 分程度の自学自習 (予習・復習) が必要である。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 統治				
(1) 政策の対立軸	2	☐ 現代日本政治における政策の対立軸を理解できる。	☐	政党の特徴を調べておく
(2) 政治と経済	2	☐ 市場の失敗、政府の失敗のメカニズムを理解できる。	☐	様々な規制の例を調べる
(3) 自由と自由主義	2	☐ 自由の概念の変遷、自由主義の意味を理解できる。	☐	自由の意味を考える
(4) 福祉国家	2	☐ 日本における福祉について理解できる。	☐	福祉制度について調べておく
(5) 安全保障問題	2	☐ 安全保障概念の変遷について理解できる。	☐	日本が戦争に参加した理由について調べておく
2. 統治機関				
(1) 議会	2	☐ 日本の国会のシステムとその問題点について理解できる。	☐	日本の国会の基本的な制度について復習しておく
(2) 内閣	2	☐ 日本の行政についての特徴とその問題点について理解できる。	☐	新聞における「今日の首相」の欄を1週間見ておく
(3) 官僚制	1	☐ 日本の官僚制度の特徴と問題点について理解できる。	☐	「天下り」についての基本的な意味を調べておく
(4) 地方自治	1	☐ 現代日本の地方自治をめぐる議論について理解できる。	☐	自分の住む市町村の予算について調べておく
---中間試験---		授業項目1、2について達成度を確認する。		
3. 統治のプロセス				
(1) 政策過程	1	☐ 政策過程に関する理論について理解できる。	☐	政策成立過程を調べる
(2) デモクラシー	1	☐ 民主主義の理論の変遷と日本における現状について理解できる。	☐	日本の選挙権の歴史について調べておく
(3) 投票行動	2	☐ 民主主義の基礎となる選挙について理解できる。	☐	最近あった選挙報道についての記事を集めておく
(4) 政治の心理	2	☐ 政治文化と価値観の変化について理解できる。	☐	日本の政党のマニフェストについて調べておく
(5) 世論とメディア	2	☐ 政治におけるマスメディアの役割について理解できる。	☐	政治に関する新聞報道を調べておく
(6) 利益団体	2	☐ 日本政治における利益団体の役割について理解できる。	☐	日本における利益団体を調べておく
(7) 政党	2	☐ 政党に関する理論および日本の政党政治について理解できる。	☐	日本の政党の HP をチェックしておく
---期末試験---		授業項目3について達成度を確認する。		
試験答案の返却・解説	2	各試験において間違えた部分を理解出来る。		
〔教科書〕 授業で随時プリントを配布する。				
〔参考書・補助教材〕 随時指示する				
〔成績評価の基準〕 中間・期末試験成績 (60%) + レポート成績 (40%) - 授業態度(最大 15%)				
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕 1-a				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 1-1, 2-1				
〔JABEE との関連〕 (a)				

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	5 年次 ・ 後期 ・ B 群		
	対象学科・専攻	機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科		
社会概説Ⅲ (現代史Ⅱ) Introduction to Social Study Ⅲ (Modern History Ⅱ)	担当教員	鯨島 俊秀 (Sameshima ,Toshihide)		
	教員室	一般科目棟3階 (TEL : 42-9045)		
	E-Mail	t_samesi@kagoshima-ct.ac.jp		
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 学修単位〔講義Ⅱ〕 / 2 単位			
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (90 分) + 自学自習 (210 分)〕 × 15 回 ※適宜, 補講を実施する			
〔本科目の目標〕 よき技術者としてだけでなく、よき市民として現代社会及び人類の未来に貢献できるに足る歴史的知識及び歴史的思考力を養うことを目標とする。				
〔本科目の位置付け〕 1、2、3 年次の歴史及び地理、倫理、政経における学習内容を基礎とする。1、2 年次の歴史では時間数の関係で学習し得なかったテーマの中で興味深いものを取り上げながら、現代まで時を下っていく。				
〔学習上の留意点〕 我々の生きている現代は人類の様々な営みの上に築かれたものである。現代社会を理解するためにも興味を持って講義を聴くことが肝要。また、時事問題も適宜扱っていくため、事前に新聞記事等にも目を通すなどの予習が必要。さらに、講義終了後、ノート・資料の整理等の復習を行う。なお、 <u>演習形式の授業も計画しているため、希望者多数の場合は、受講者を 40 名程度に絞る予定である。</u>				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 現代の世界 --- 後学中間試験 ---	1 4	□ 近代までの世界史(現代史を理解するために1、2年次未習事項のフォローアップ)、特に、1900年以降の世界史の概要を理解することができる。 授業項目1について達成度を確認する。	☐	担当教員の指示する文献等を読み、各授業項目の概要を把握しておくこと。
2. 歴史研究入門	8	□ 郷土史研究の実例を題材に歴史研究の手法を理解することができる。	☐	
3. 今を観るための現代史 --- 後学期末試験 ---	6	□ 現代社会を生きていくうえで必要なテーマ史、時事問題について理解を深めることができる。 授業項目 1～3 について達成度を確認する。	☐	
試験答案の返却・解説	2	試験において間違えた部分を理解できる。		
〔教科書〕 「新選 世界史B」(東京書籍) 1・2年次の教科書を必要に応じて持参する。				
〔参考書・補助教材〕 「新選 図説世界史」(東京書籍) 1 年次の補助教材を必要に応じて持参する。				
〔成績評価の基準〕 定期試験(70%)＋平常テスト・レポート(30%)－授業態度 (上限 15%)				
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕 1-a , 4-b				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 1-1 , 4-1				
〔JABEE との関連〕 (a) , (b)				

[illegible]

平成 25 年度 シラバス		学年・期間・区分	5 年次 ・ 後期 ・ B 群	
		対象学科・専攻	機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科	
社 会 概 説 IV (Introduction to Social Study IV)		担当教員	中村 隆文 (Nakamura, Takafumi)	
		教員室	一般科棟 3 階 (TEL : 42-9043)	
		E-Mail	nakamura@kagoshima-ct.ac.jp	
教育形態 / 単位の種別 / 単位数		講義 / 学修単位 [講義Ⅱ] / 2 単位		
週あたりの学習時間と回数		[授業 (90 分) + 自学自習 (210 分)] × 15 回 ※適宜, 補講を実施する		
〔本科目の目標〕 時事的な社会的・倫理的問題について、哲学的観点からそれを分析・考察し、それに対する自身の考え方について、その理論的な正当化可能性を検証できるようになることが本科目の目標である。なお、英語文献購読および英語による質疑応答を行う。				
〔本科目の位置付け〕 4 年次の「倫理学」「哲学」、および 5 年次の「技術倫理総論」の内容を補完するものである。「技術倫理総論」では、技術者の直面する倫理的問題に対する解決の基礎的手法を考察するのに対し、本科目では、さまざまな倫理的問題の背景を捉え、その詳細を分析することによって、そうした問題がどのような意味をもっているのかを多様な角度から見つめなおすものである。				
〔学習上の留意点〕 単になる暗記に終わることなく、自分自身で問題を考え抜く態度を身につけること。教科書や適宜配布するプリントを参考に毎回復習し、200 分以上の自学自習を行うこと。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 世界の宗教・民族紛争事情	5	☐ ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の共通点と差異およびそれぞれの意義について、適切に理解できる。	☐	左の項目について、図書館の文献やインターネットで概略を理解しておく
2. 資本主義 vs. 共産主義の歴史	5	☐ 産業革命後の資本主義、およびその反動として生じたマルクスの社会主義・共産主義の歴史的意義について正しく理解できる。	☐	
3. 公平はどのように実現できるか？	4	☐ 近代以降のロック流の社会契約論、および 20 世紀のロールズの正義論などの理論的枠組みを正しく理解できる。	☐	
前期中間試験		授業項目 1～3 についての達成度を確認する。		
4. 合理的人間はどのように道徳的人間となりうるのか？	8	☐ 道徳と合理性との繋がりについて、D.ゴティエの議論を理解しながら「合理的譲歩」の概念を理解できる。	☐	
5. 環境問題における「問題」とは本当のところ何が問題とされているのか？	6	☐ 非人間中心主義 vs. 人間中心主義の議論、土地倫理や世代間倫理などについて理解できる。	☐	
前期期末試験		授業項目 4～5 についての達成度を確認する。		
試験答案の返却・解説	2	試験において間違えた部分を理解できる。		
〔教科書〕 なし				
〔参考書・補助教材〕 必要な資料文献は適宜プリントして配布する。				
〔成績評価の基準〕 中間試験および期末試験成績 (100%) — 授業態度 (20%)				
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕 1-a, 4-b				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 1-1, 4-1				
〔JABEE との関連〕 (a), (b)				

Memo

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	5 年次 ・ 前期 ・ B 群		
	対象学科・専攻	機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科		
知的財産概論 (Introduction to Intellectual Property)	担当教員	児島 琢也 (Kojima, Takuya)		
	教員室	非常勤講師控え室		
	E-Mail	児島 琢也 : kojima@rad.toyota-body.co.jp		
	教育形態／単位の種別／単位数	講義・演習 / 学修単位〔講義Ⅱ〕 / 2 単位		
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (90 分) + 自学自習 (210 分)〕×15 回 ※適宜、補講を実施する			
〔本科目の目標〕 知的財産権について理解し、その重要性を認識し、それぞれのアイデアを権利化できるような素養を身につけることを目的とする。				
〔本科目の位置付け〕 知的財産のモラルやマインドを身につけさせるだけでなく、知的創造力を育成し、知的財産権についての知識を学び、活用体験を通して知的財産に関する基礎的な力を養う。				
〔学習上の留意点〕 国民的素養としてのモラル・マインドを身につけ、制度を理解するだけでなく、創造力の育成をめざしている。そのため学習上だけでなく生活する上でも知識や知恵を生かす大切さや創意工夫をする態度を持って過ごすことが望まれる。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 特許	13	☐ 特許について理解し、説明できる。	☐	特許、意匠、商標について該当の章を読んで概略を把握しておく。
		☐ 特許情報を調査できる。	☐	
		☐ 特許を出願する方法を説明できる。	☐	
		☐ 実用新案について理解できる。	☐	
2. 意匠		☐ デザインの定義について理解できる。	☐	
		☐ 意匠情報について調査できる。	☐	
3. 商標		☐ 商標について理解できる。	☐	
		☐ 商標について調査できる。	☐	
―― 前期中間試験 ――		授業項目 1－3 について達成度を確認する。		
4. 活用	15	☐ 知的財産の活用について理解できる。	☐	活用、著作権について該当の章を読んで概略を把握しておく。
5. 著作権		☐ 著作権について理解できる。	☐	
6. 実習		☐ 各自の専門の特許について調査できる。	☐	
		☐ 各自のアイデアをパテントコンテストに応募するために書類を作り上げることができる。	☐	
―― 前期期末試験 ――		授業項目 4－6 について達成度を確認する。		
試験答案の返却・解説	2	各試験において間違えた部分を理解できる。		
〔教科書〕 産業財産権標準テキスト総合編 経済産業省特許庁企画 工業所有権情報・研修館 産業財産権標準テキスト特許編 経済産業省特許庁企画 工業所有権情報・研修館 書いてみよう特許明細書出してみよう特許出願 経済産業省特許庁企画 工業所有権情報・研修館				
〔参考書・補助教材〕 特になし				
〔成績評価の基準〕 中間試験および期末試験(80%)＋レポート(20%)－授業態度(20%) ただし、パテントコンテスト応募書類(レポート)を提出なき者は単位修得不可とするので注意すること。				
〔本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連〕 2-a, 4-a				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 2-2, 4-2				
〔JABEE との関連〕 (b), (d)(3), (f)				

Memo

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分		5 年次 ・ 後期 ・ B 群		
	対象学科・専攻		機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科		
	担当教員		山崎 亨 (Yamasaki, Toru) 北園 裕一 (Kitazono, Yuichi) 堂園 一 (Douzono , Hajime)		
	教員室		体育館 2 階 (TEL&FAX : 42-9065 または 42-9066)		
体 育 (Physical Education)	E-Mail		kitazono@kagoshima-ct.ac.jp		
教育形態／単位の種別／単位数		講義・実習 / 履修単位 / 1 単位			
週あたりの学習時間と回数		〔授業 (90 分)〕×15 回 ※適宜, 補講を実施する			
〔本科目の目標〕 運動の合理的な実践と健康についての基礎的な事項について科学的な理解を深め, これらに基づいて自ら進んで積極的なスポーツ活動への参加と, 健康の保持増進に関する問題を解決する能力を養う。					
〔本科目の位置付け〕 心身共に健康な技術者としての身体の基礎づくり。体育・スポーツ活動の実践を通して, 相手の立場に立ってものを考え, グローバルに活躍できる人間性の育成。					
〔学習上の留意点〕 教科書「高専の健康科学」及び参考書「アクティブスポーツ」の授業に関連するところを読み理解すること。実技においては, 教材(運動場・体育館)を考えて正しい服装と, 体育用具等の管理, 安全に十分留意すること。					
〔授業の内容〕					
授 業 項 目		時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. オリエンテーション		2	☐ (1) 選択制授業のガイダンスを理解することができる。 ☐ (2) AED(自動体外式除細動器)の取り扱い方法と一次救命処置が理解できる。	☐ ☐	参考書「アクティブスポーツ」による
注) 選択制 12 : 授業項目 2～11 については, 各種目 12 時限をワンセットとして, 種目選択の機会を 2 回設定する。従事時間合計 24 時限 (=12 時限×2 種目)。					
2. バレーボール		選択制 12	☐ (1) パス、スパイク、サービスができる。 ☐ (2) 1・5 フォーメーションゲーム、審判を行うことができる。	☐ ☐	P187-P207 の内容について、特に集団技能の練習法とチームフォーメーションを理解しておく。
3. テニス		選択制 12	☐ (1) 基礎技術練習:グリップ、ラケットワーク、ストローク、サービス、ネットプレイ ☐ (2) ゲームの進め方、審判法、ゲーム(シングルス、ダブルス)	☐ ☐	P209-P218 の内容について、正規のシングルス、ダブルスの戦術的理解とゲームの進め方を理解しておく。
4. ソフトテニス		選択制 12	☐ (1) 基本技能:ストローク、サービス、ボレーができる。 ☐ (2) 雁行陣・平行陣のゲームができる。	☐ ☐	P219-P288 の内容について、正式なルールにより、ペアで作戦を立ててのゲームを理解しておく。
5. ソフトボール		選択制 12	☐ (1) 基本技能の復習ができる。 ☐ (2) ゲーム、審判を行うことができる。	☐ ☐	P249-P260 の内容について、特にチームプレイの徹底を理解しておく。
6. ゴルフ		選択制 12	☐ (1) クラブの種類と構造、握り方を理解できる。 ☐ (2) スイングの基本と練習ができる。	☐ ☐	P261-P266 の内容について、特にプレイ上のエチケットとマナーを理解しておく。
7. サッカー		選択制 12	☐ (1) 基礎技術及びシュート練習ができる。 ☐ (2) 4・3・3 システムフォーメーションの理解とゲーム、審判を行うことができる。	☐ ☐	P143-P166 の内容について、特にゲームスタイルの変遷を理解しゲームに応用できるようにしておく。
>>> 次頁へつづく >>>					

〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
		>>> 前頁からのつづき >>>		
注) 選択制 12 : 授業項目 2～11 については、各種目 12 時限をワンセットとして、 種目選択の機会を 2 回設定する。従事時間合計 24 時限 (=12 時限×2 種目)。				
8. バスケットボール	選択制 12	□ (1) 基礎技術の習熟： レイアップショット、リバウンドボール、ドリブルなど ができる。 □ (2) 集団技術： セトオフフェンス、マンツーマン・ゾーンの理解とゲ-ム・審判を行うことができる。	☐ ☐	P101-P124 の内容について、 特にマンツーマン、ゾーンの 考えを理解してゲームができ るようにしておく。
9. 水 泳	選択制 12	□ (1) 4 泳法のスタートができる。 □ (2) 25m のタイム測定ができる。	☐ ☐	P65-P80 の内容について、健 康面の効果や、安全、救助法 についても理解しておく。
10. バドミントン	選択制 12	□ (1) 基本技能の理解と練習:正しいスタンス、グリップに ついて理解できる。 □ (2) ゲーム(シングルス、ダブルス)、審判を行うことが できる。	☐ ☐	P239-P248 の内容について 相手に応じて作戦を立てて ゲームすることを理解してお く。
11. 卓球	選択制 12	□ (1) 基本的な打球のコース(サービスも含む)を理解し て基本練習を行うことができる。 □ (2) ゲーム(シングルス、ダブルス)、審判行うことがで きる。	☐ ☐	P229-P238 の内容について 入射角と反射角、ボールの 回転と反発の科学的理解をし ておく。
12. 保健体育理論	4	□ (1) 結婚と家族計画について、理解できる。	☐	P198-P207 の内容について、 教科書「高専の健康科学」を 読んで概要を把握しておく。
〔教科書〕	保健体育理論 『運動と健康の科学』 伊藤道郎 他 (鈴木製本所)			
〔参考書・補助教材〕	体育実技 『アクティブスポーツ』 長谷川聖修 他 (大修館書店)			
〔成績評価の基準〕	技能 (60%) + スポーツテスト (30%) + レポート (10%) - 授業態度 (30%)			
〔本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連〕 4ーb				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 4ー1				
〔JABEE との関連〕 (b)				

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	5 年次 ・ 前期 ・ B 群		
	対象学科・専攻	機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科		
比 較 文 化 概 論 A (Comparative Culture A)	担当教員	坂元 真理子 (Sakamoto, Mariko)		
	教員室	図書棟 2 階 (TEL : 42-9067)		
	E-Mail	sakamoto@kagoshima-ct.ac.jp		
教育形態／単位の種別／単位数	講義 / 学修単位〔講義 I〕 / 1 単位			
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (90 分) + 自学自習 (60 分)〕 × 15 回 ※適宜, 補講を実施する			
〔本科目の目標〕 グローバルな視点に立ち、また相手の立場に立つてものを考えることができる技術者を指すために、自文化と異文化について理解し、異文化を受け入れるために必要な知識と価値観を養う。				
〔本科目の位置付け〕 比較文化概論Bと並行で開設される。				
〔学習上の留意点〕 毎回、小レポートを提出すること。国内外の文化や習慣、歴史に興味関心を持って受講することが好ましい。なお、本科目は学修単位〔講義 I〕科目であるため、指示内容について60分程度の自学自習 (予習・復習) が必要である。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 文化とは	3	☐ 文化の定義について理解することができる。	☐	次回の学習内容に備え、異文化及び自文化についての既習範囲の学習内容を自分なりの視点で整理する。
2. 異文化とは	3	☐ 異文化の定義と異文化体験の背景について理解することができる。 ☐ 異文化と接触する事にまつわる事柄と、その対応パターンについて理解することができる。	☐ ☐	
3. 国際的異文化との接触	3	☐ 国際的な異文化体験の様々な背景について理解し、国際的異文化接触に際してその変容や葛藤について理解することができる。	☐	
4. 国内的異文化との接触	3	☐ 国内での異文化体験の様々な背景について理解し、国内での異文化接触に際してその変容や葛藤について理解することができる。	☐	
5. 多文化を生きる	4	☐ 多文化社会という概念について理解し、多文化社会の視点から異文化を理解することができる。	☐	
6. 「自由選択型社会」を生きる	4	☐ 自由選択型社会という概念について理解し、自由選択型社会の視点から異文化を理解することができる。	☐	
7. ネット社会を生きる	4	☐ ネット上における社会について理解し、考えをまとめることができる。	☐	
8. 異文化を生きる	4	☐ 社会の中の異文化と向き合う際の視点について考えをまとめることができる。	☐	
--- 前期期末試験 ---		授業項目 1-7 について達成度を確認する。		
試験答案の返却・解説	2	試験において間違えた部分を理解できる。		
〔教科書〕 なし				
〔参考書・補助教材〕 なし				
〔成績評価の基準〕 定期試験成績 (50%) + レポート (50%) - 授業態度 (上限 20%)				
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕 4-b				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 1-1, 4-3				
〔JABEE との関連〕 (a), (f)				

Memo

.....

.....

.....

平成 25 年度 シラバス	学年・期間・区分	5 年次 ・ 前期 ・ B 群		
	対象学科・専攻	機械, 電気電子, 電子制御, 情報, 土木工学科		
	担当教員	保坂 直之 (Hosaka, Naoyuki)		
	教員室	図書館 2 階 (TEL : 0995-42-9064)		
比較文化概論 B (Comparative Culture B)	E-Mail	hosaka@kagoshima-ct.ac.jp		
	教育形態／単位の種別／単位数	講義 / 学修単位 [講義 I] / 1 単位		
週あたりの学習時間と回数	[授業 (90 分) + 自学自習 (60 分)] × 15 回 ※適宜, 補講を実施する			
〔本科目の目標〕 日本と欧州の文化を比較しながら、戦後欧州の社会と文化について学び、それによって異文化を理解するための方法・他者に自国文化を理解してもらう感覚を養う。特に「B・欧州」では文化の構造的 (全体的) 理解に焦点をあわせている。映画やニュース映像などの資料も導入するが、「グローバル化による構造的変化は可能か」という問題設定が特徴に授業の背景をなしている。				
〔本科目の位置付け〕 外国語の学習の目的は、本来言葉を知ることを通してその背後にある文化を学ぶことにある。本科目は通常の外国語授業では十分に時間が割けないこうした側面のみ集中して講義する。英語・ドイツ語等の基礎的知識があると理解がしやすい場合があるであろう。比較文化 A と並行して開講する。				
〔学習上の留意点〕 例えばドイツの学校の授業方法や雰囲気を理解するために、ディスカッションやグループワークを実施する場合もある。受身的な知識を得ることよりも、他国の人と中身のある話題で話し合えるようになることが、本来のこの科目の目的である。				
〔授業の内容〕				
授 業 項 目	時限	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1 イントロダクション : 多民族社会としての欧州	3	☐ 1 「多民族社会」という言葉で表わされる欧州の実情を理解できる。	☐	配布資料等をあらかじめ読んで、予習しておくこと
2 異文化の構造的理解 1 : 食文化	3	☐ 2 日常生活や社会のありようについて、異文化としての欧州の文化を構造的に理解できる。	☐	
3 異文化の構造的理解 2 : 学校での授業と ディスカッションの伝統	3	☐ 3 日常生活や社会のありようについて、異文化としての欧州の文化を構造的に理解できる。	☐	
4 異文化の構造的理解 3 : ドイツの政治と社会と弁論術	3	☐ 4 日常生活や社会のありようについて、異文化としての欧州の文化を構造的に理解できる。	☐	
5 欧州の戦後史と生活 1 : "Good-bye, Lenin!"での 冷戦体制	3	☐ 5 欧州の戦後史を生きた実例を通して理解できる。	☐	
<中間試験>		1～5について理解の達成度を確認する。		
6 欧州の戦後史と生活 2 : "Das Leben der Anderen"での 冷戦体制	3	☐ 6 欧州の戦後史をさまざまな角度から理解できる。	☐	配布資料等をあらかじめ読んで、予習しておくこと
7 日本と比較する : 音楽・美術・モード	3	☐ 7 欧州の戦後史をさまざまな角度から理解できる。	☐	
8 日本と比較する : 労働市場の開放、社会福祉	3	☐ 8 欧州の戦後史をさまざまな角度から理解できる。	☐	
9 日本と比較する : 戦争責任問題と徴兵制	3	☐ 9 自国の状況と比較しつつ、欧州の現代の文化や社会の問題を理解できる。	☐	
10 まとめ代えて : 自国を説明するための 25 の質問と回答	2	☐ 10 自国の将来の問題 (労働市場の開放など) を欧州と比較しながらディスカッションできる。	☐	
<期末試験> <答案返却・解説>		6～10について理解の達成度を確認する。 各試験での教員からのフィードバックを元に理解と批判能力を深める。		
〔教科書〕プリントで配布 (資料や執筆したレポート等のファイリングをお願いする)				
〔参考書・補助教材〕読書案内等は随時授業中に行なう				
〔成績評価の基準〕定期試験 (レポート試験、2 回) 100%—授業態度等 (10%)				
〔本科 (準学士課程) の学習・教育目標との関連〕 4-b				
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 1-1, 4-3				
〔JABEE との関連〕 (a), (f)				